

極東海運実業株式会社

マーケットレポート 2015年2-3月

Monthly Market Report February-March 2015



中国で恒例の「全人代」が開催されました。世界の海上荷動きに多大の影響を及ぼす中国だけに毎回興味をもって注目しています。国防、技術革新、経済、汚職、格差問題、環境問題、民族問題等多岐に亘り発表され、全国各地より2000人余の代表が出席して、あまり質疑応答もなく決議され、各代表は各地方に持ち帰り決議を実行、実現するために努力するものです。我々としては、特に経済面での発表に興味がありますが、今年の実質経済成長率の目標を前年より0.5ポイント低い「7%」前後にすると表明。些かブレーキをかけて安全運転と云うところでしょうか？これを「新常态」(ニューノーマル)と表現しておりますが、経済発展の減速を容認したものの、良いように云えば、「安定的成長」を目指すものでしょう。

過去、景気の過熱時期には全人代での表明数値より高めで着地していたものですが、昨今諸般の事情による中国のジレンマを觀ます。表明においては、それでも製造業は中国が強みとする産業であると唱っており、世界の工場、製造強国への転換と強調しています。大量の原材料を買い(バルクで輸入)、多量の製品を世界に売る(コンテナで輸出)ことは大歓迎です。海上輸送量が減らない様な、願わくば増える様な「安定的成長」を実現して欲しいものです。とにかく今回の発表内容は従来の「行け行けドンドン」でなく深謀遠慮に移行しようとする意図が觀られます。即ち今年のキーワードであるREBALANCE(再均衡)を志向しているように感じます。

インドに行きました、人口13億人、人口が多いのは今後の国力高揚の潜在力となるので注目に値します。デリー空港は巨大で立派に出来上がっており、高速道路も整備しつつありますが、教育を含め港湾などのインフラに不足感を觀ました。地方に行けば貧困を見ます。人

口が多いだけに、海上輸送貨物の今後の増加に期待したいものです。観光の目玉、Taj Mahal はムガル帝国5代皇帝シャージャハーンが、最愛の王妃ムスターズ・マハル（1931年歿）の為に建てた白大理石の霊廟でチャンスがあれば観光して下さい。1983年に世界遺産に登録されています。

話は変わりますが、日本のオペレーターが運航する近海船隻数推移を見れば、1990年に500隻、2000年に400隻、2010年に260隻、2014年半ばで170隻にまで減ったそうです。日本から海外売船された中古船によるブーメラン現象もありますが、この世界でもREBALANCEを觀ます。船型、サイズ、荷動きの変化にシンクロナイズしながら発展してきた近海業界ですが、今まで培ってきた経験とノウハウをもって、往路/復路を日本ベースとする以外に減多に日本に帰ってこない近海船志向もチャレンジしては如何でしょうか？

野田 著

2015年2月成約

Name	Type	Size	Year	Country	US\$/Mill
Stavros P	Bulk	45863 Dwt	1994	Japan	4
Copper Queen	Bulk	46762 Dwt	2001	Japan	7.3

2015年3月成約

Name	Type	Size	Year	Country	US\$/Mill
African Sun	Bulk	45208 Dwt	1994	Japan	3.8
Storm Ranger	Bulk	45700 Dwt	1995	Japan	4.5
Delta Ranger	Bulk	43100 Dwt	1995	Japan	4.3
Rochester Castle	Bulk	45300 Dwt	1997	China	3.35
Arion SB	Bulk	45916 Dwt	1997	Korea	4.85
Glory Ace	Bulk	46600 Dwt	1999	Japan	6.2
Valopoula	Bulk	45578 Dwt	2000	Sebu	6.1
CMB Biwa	Bulk	53505 Dwt	2002	Japan	9.4
Ramada Queen	Bulk	46400 Dwt	2005	Japan	8.65